



NPO PTPL “ともいき” 便り No.36

■秋分（しゅうぶん） （2013年9月21日発行）

秋分をはさんで7日間が秋の彼岸ですね。この頃、太陽は真西から昇って真西に沈みます。日の沈む方角に極楽浄土があるとされてきました。いわゆる西方浄土です。

少年のころ、沈む夕陽に向って手を合わせて拝むおばあさんを見て、ふしぎな思いにさそわれたことがありました。丁寧に日々を生きておいでな姿だと分かったのは、だいぶ後のことでした。日々の感謝を昔の人ほど忘れずにいたと思います。

秋分。おもしろい書きかたで二十四節気を紹介している文章に出会いました。引用します。

『二十四節気にも「格」のようなものがある。主役級は立春に立夏、立秋、立冬、さらには夏至、冬至といったところか。準主役級が大暑に大寒、啓蟄は大物の助演俳優だろう。きょう7日は白露^{はくろ}だが、これは風情のある名脇役を思わせる。野の草に宿る露に秋を感じる頃、である。』

なるほど、こんな自分流の格付けで味わうのもおもしろいですね。ゆとりがあります。夏の終わり告げる文の書き出し。うまいものだなあと感じました。書いた人はどなたでしょう？ 朝日新聞の天声人語さん、9月7日の朝刊でした。

しかし、肝腎の春分と秋分が入っていません。どうしたことでしょう。NPO PTPLに参加して私は「二至、二分」と学びました。夏至、冬至で二至。春分と秋分で二分。こちらのほうが二十四節気の横綱ではないか、などちょっと不満も残りましたが。

「暑さ寒さも彼岸まで」。昔の日本人は本当に自然をよく感じとって、よい言葉を残してくれていますね。しかしこの夏は、続く豪雨、水害、竜巻、そして最後に大型台風18号の大暴れ。どんな怨恨が日本に対してもたれているのでしょうか。

厳しすぎるようにも思われる「自然さま」。それに、福島原発事故の放射能汚染水流出という人災が加わり、心は痛みつづけます。さらに汚染水対策は万全と世界に向って言いきった総理大臣。世界の論調は厳しい眼で日本を見ているようです。日本への不信感につながらなければよいのですが。

世界でも異常気象による被害が続出。物質文明謳歌という生き方を、人類は根本から見直す時が来ているように思われます。「人と人、人と自然のコミュニケーション」の大切さが増していると思うのです。

彼岸の中日 23 日から 10 月 8 日ころまでの節気、秋分。南天の実がふくらんできました。紫式部の美しい紫のつぶつぶが、大木の根方に数本、見て見てというように輝いていました。ひと筋の心で育ち生きている植物、小さいものほど愛おしく思えます。

空の表情も変わってきました。夕焼け空の茜色、少し不気味なほどの赤く大きな西の空。そこに極楽浄土はあるのでしょうか。また回ってきた今年の秋。輪廻。回る星、水の惑星・地球。その日本の季節の分かれ目、秋分。今年の実りはどうでしょう。

さて、私ごとになりますが 6 月から 9 月まで、腰痛のため「ともいき便り」を休ませて頂いていました。ようやく再開です。ご心配下さった皆さま、私の担当分を埋めて下さった、すとうあさえさん、佐藤誠さんにお詫びと御礼を申し上げます。

読者の皆様、よい秋をお過ごしください。

朝倉 勇 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

■ともいき・ともうみ雑感彼は

日本の夏の気候がおかしくなってきたと感じませんか？

一年、春・夏・秋・冬、各季節 3 ヶ月となっていますが、近年どうも夏が長く感じられ、春と秋が多少短くなったような気がします。

猛暑、高湿度、突発的な局地的豪雨、突風、雷、竜巻、そして台風・・・正に異常気象です。地球温暖化のせいでしょうか？

われわれ自然の一部である人間は、とりわけ都市生活者は、人間生活・活動圏をつくり、コンクリートとガラスと鉄の箱の中で自然を遠のけて生活しています。これからの都市での生活はより無季化、より環境の人工化が顕著に進展していくことでしょう。

こういう時代にあって、NPO PTPL は長年にわたって「ともいき」の価値観、生活観、「ともいき社会」づくり、「生きている幸せを実感できる社会」づくりの啓蒙、啓発活動に従事してきました。NPO PTPL の思想、哲学に同意する同志も増えてきました。9 月 25 日のハンドインハンド活動もそのひとつです。

(<http://www.plantatree.gr.jp/handinhand/>をご覧ください。)

「都市に水と緑とさわやかな風を」「子どもたちに自然を取り戻そう（子どもに五感を取り戻そう）」という趣旨で“子どもたちの健全な発達”と“人と自然の共生”をテー

マにした活動です。

(「ともいき曆」の表紙、9月25日のハンドインハンドマークをクリックしてください。)

あなたの住んでいる町や村で子どもたちと一緒に、このハンドインハンド活動を力強く実施していこうではありませんか。子どもたちの未来のために、そして子孫のために。

勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

●腰痛で休養されていた NPO PTPL 理事の朝倉さんの「ともいき便り」が久しぶりに、みなさんにお届けでき、事務局スタッフ一同喜んでいきます。

さすが、コピーライター界の重鎮であり、詩人ですね。文章ひとつひとつに含蓄と日本語の美しさを感じられます。これからも、皆さんに素晴らしい文章が届けられるようよろしくお願いいたします。

●9月16日(月)は「敬老の日」でした。65歳以上の高齢者が日本国民の25%に達したという報道がありました。「ともいき」のサイトに“青春とは心の若さである”というメニューがあり、久しぶりに見ると、サムエル・ウルマンの言葉が高齢者への応援メッセージのように感じられます。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.tomoiki.tv/seisyun/>

●9月25日(水)はNPO PTPLの活動の柱の一つである「ハンドインハンドデー」です。NPO PTPLでは2005年の立ち上がり時期に制作したコンセプト映像「木を植えよう、愛する仲間をつくろう」があります。世話人である故木村尚三郎先生が書き下ろしたエッセイを映像にしたものです。こちらもぜひ、ご覧ください。

●NPO PTPL 会員(法人・個人)を常時、募集しています。ぜひ、お知り合いの方や企業・団体をご紹介ください。

<http://www.tomoiki.tv/kiwoueyou/kiwoueyou700.html>

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒107-0052 東京都港区赤坂1-6-6 第2井上ビル3階

電話：電話：03-6277-7458 FAX：03-6277-7459

Email：info@plantatree.gr.jp